## 【授業科目】保健医療福祉行政論　　Health and Welfare Administration

| 担　当　教　員 | 開講年次 | 選択必修 | 単位数 | 時間数 | 授業形態 | 実務経験 | オフィスアワー | 教職員への授業公開 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 工藤 安史 | ２年次<br>後　期 | 必修 | 2 | 30 | 講　義 | | 巻末掲載 | 可 |

| | |
|---|---|
| 授業概要<br>（内容と進め方）<br>及び課題に対する<br>ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法 | 授業概要／医療・保健・社会福祉の歴史とその概要、少子化対策、高齢化対策、障害者および難病対策、貧困と健康、保健サービスの提供体制などについて指導する。<br><br>課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／授業中の確認テストおよびレポート課題、さらに学年末試験などに対して、講義中および掲示板を通して、学習方法について助言する。 |
| 授業の<br>位置づけ | 本学のディプロマ・ポリシー②「人間の健康を環境との関係において捉え、地域社会の生活者の視点から看護の役割を考え、実践することができる。」の達成に寄与している。 |
| 到達目標<br>（履修者が到達<br>すべき目標） | ①保健医療福祉行政について、自分の言葉で説明できる。<br>②福祉について学ぶことで、広い視野で保健・医療のあり方について意見を述べられる。<br>③医療専門職者として社会福祉学分野の専門家とも、チーム医療を実践できる。 |
| 時間外学習に必要な<br>内容・時間 | 第1回から第15回の事前学習：講義レジメを配布しますので、レジメを予め読んで来てください。また、教科書で該当する箇所を読んできて下さい。（目安となる事前学習の時間は、1回あたり2時間です）<br>第1回から第15回の事後学習：講義で指導した内容を踏まえ、レジメプリントおよび教科書を中心に復習して下さい。（目安となる事後学習の時間も1回あたり2時間です）<br><br>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位15回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。 |
| 授業計画 | 第１回から第３回　わが国の福祉の歴史<br>社会福祉法、福祉六法、福祉関係八法改正、社会福祉基礎構造改革などについて学ぶ。<br><br>第４回から第５回　障害者福祉および難病対策<br>精神保健福祉法、知的障害福祉法、身体障害福祉法、障害者総合支援法について学ぶ。<br><br>第６回　難病対策<br>難病法について学ぶ<br><br>第７回から第８回　貧困と健康<br>生活保護制度や貧困と健康問題などについて学ぶ。<br><br>第９回から第10回　我が国の社会福祉などに関連する様々な法律<br>児童虐待、児童相談所、権利擁護、DV 防止法などについて学ぶ<br><br>第11回から第12回　我が国の少子化と高齢化に対する対策<br>少子化社会対策基本法、高齢化社会対策基本法、年金制度などについて学ぶ。<br><br>第13回　学校保健<br>学校保健の概要、学校保健安全法、看護教諭などについて学ぶ。<br><br>第14回　職域保健<br>労働基準法、労働安全衛生法、産業保健スタッフ、労働衛生の３管理などについて学ぶ。<br><br>第15回　地域保健<br>地域保健法、保健所、市町村保健センターなどについて学ぶ<br><br>全て<br>工藤 |
| 評価方法<br>評価基準 | 筆記試験 100％で評価する。 |
| 教科書 | 健康支援と社会保障制度［3］社会保障・社会福祉　第25版　医学書院<br>参考書等：適宜紹介する。 |
| 学生への<br>助言等 | レジメを配布して講義を行いますが、教科書を自ら読み進めてください。 |